

中国語、日本語及び英語における 移動を表す前置詞句 / 後置詞句について ——構造的 position と統語的移動の観点から——

杜 天 邑

1 はじめに

Talmy (1985, 2000) の空間移動の類型論では、経路が前置詞、不変化詞などの衛星と呼ばれる要素によって具現化する英語や中国語は衛星枠付け言語に分類され、経路が主動詞によって具現化する日本語は動詞枠付け言語に分類された。しかし、前置詞句 / 後置詞句が表しているのは、主語の移動の方向なのか、目的語の移動なのか、主語や目的語の居場所なのかは、日、中、英三言語では異なると考えられる。

この論文では、前置詞句 / 後置詞句の構造的 position を考察する¹⁾。具体的には、PP の構造的曖昧性と統語的な移動、及び目的語の移動を見ることで分析を行う。これにより、日、中、英三言語の PP の構造と意味の相違点と共通点を明らかにする。

2 PP の構造的 position

この節では、日本語、英語と中国語において、PP が、移動の対象の結果的な position を表すか、主語が表す動作主の position を表すかを見る。そのために、構造的曖昧性と前置詞句 / 後置詞句の移動の二つの面から考察を行う。

2.1 起点を表す「水の中から」と From the water

影山 (2002: 66) では以下のような例文が挙げられている。

- (1) He pulled a big fish out of the water.
- (2) 彼は水の中から大きな魚を引っ張った。
- (3) 彼は水の中から大きな魚を引っ張り上げた。

影山 (2002) によると、英語の例文 (1) では、大きな魚が水の中にいて、そこから引き上げたという状況で使うことができるが、日本語の例文 (2) では全く違う状況を表すことになる。つまり、水の中にいるのは彼で、そこから魚を引っ張ったという状況である。英語と同じ解釈にするには、(3) のように複合動詞「引っ張り上げた」を使わないといけないということである。しかし、実際は、(1) (2) (3) のどれも水の中にいるものの解釈が目的語の魚なのか、主語の彼なのかで曖昧である²⁾。

Suzuki (2012) と Koopman (2010) も、前置詞句の解釈が一般的に、移動物の「方向 (Direction)」と「居場所 (Location)」の二つの解釈ができることを示しているが、前置詞句が主語の居場所を表している可能性は考察していない。

(1) の英語では、目的語は水の中にいるが、主語は無指定である。(2) と (3) の日本語は、主語は水の中にいる場合、目的語は無指定である。目的語は水の中にいる場合、主語は無指定である。この二つの可能性を持つ。英語は次のようになる。

(4) He pulled a big fish from the water.

以上をまとめる表 1 になる。

表 1

	主語の居場所	目的語の居場所
(1) He pulled a big fish out of the water.	無指定	水の中
(2) 彼は水の中から大きな魚を引っ張った。	水の中	無指定
(3) 彼は水の中から大きな魚を引っ張り上げた。		
(4) He pulled a big fish from the water.	無指定	水の中

先行研究では PP が表しているのは主語の居場所であるか、目的語の居場所であるかは区別していないため、この表のように区別することが重要である。Inagaki (2001) と Yotsuya et. al. (2014) も第二言語習得の観点から、動詞枠付け言語である日本語と、衛星枠付け言語である英語をそれぞれ母語とする学習者の、移動に関する PP の習得を考察した。さらに、彼らは終点を表す前置詞句 (Goal PP) は考察したが、起点を表す前置詞句は考察しなかった。この節では、「水の中から」と From the water について、構造的曖昧性と PP の移動の二つの面から考察する。まずは構造的曖昧性からの考察である

2.1.1 構造的曖昧性からの考察

日本語の (3) では、水の中にいるのは主語の「彼」あるいは目的語の「魚」の二つの解釈ができる。これは構造的曖昧性で説明できる。それは、「水の中から」が次の (5) のように「大きな魚を引っ張り上げた」という動詞句の外にある場合と、(6) のように中にある場合の二つの可能性が考えられるからである。

(5) 彼は [_{pp} 水の中から] [_{vp} 大きな魚を引っ張り上げた]

(6) 彼は [_{vp} [_{pp} 水の中から] 大きな魚を引っ張り上げた]

(5) のように PP 「水の中から」が動詞句の外にある場合、「水の中から」は彼の居場所を表している。(6) のように、「水の中から」が動詞句の中にある場合、「水の中から」は魚の居場所を表している。

次に、語順を変えることで、構造的曖昧性に影響が出るかを考察してみよう。

(7) 水の中から、彼は大きな魚を引っ張り上げた。

(8) 彼は大きな魚を [_{PP} 水の中から] 引っ張り上げた

(7) のように「水の中から」を文頭に置いても、第 2.1 節で見た (3) と同様、彼が水の中にいる解釈と、魚が水の中にいる解釈という二つの解釈ができる³⁾。一方、(8) のように「大きな魚」の後に「水の中から」を置くと、「魚」が水の中にいる解釈が強い。それは、目的語の後に現れる PP「水の中から」は VP の中に入るからだと考えられる。しかし、実は (8) でも主語の彼が水の中にいて、魚は水以外の例えば、地面にいる解釈も不可能ではない。これについては第 3 節で考察する。次は英語を見てみよう。

影山は (1) の *out of the water* と対応する日本語の後置詞句を (2) (3) のように「水の中から」にしたが、日本語の「水の中から」と対応している英語は (4) の例に出ているような *from the water* のほうだと考えられる。(4) は次のような二つの構造が考えられる。

(9) He [_{VP} pulled a big fish] [_{PP} from the water]

(10) He [_{VP} pulled a big fish [_{PP} from the water]]

(4) のように PP *from the water* が文末にある場合、(9) のように *pulled a big fish* という動詞句の外に PP がある場合と、(10) のように中にある場合の二つの可能性が考えられ、水の中にいるのはそれぞれ「彼」と「魚」になる。*From the water* が文頭にある場合は以下になる。

(11) *From the water, he pulled a big fish.*

(11) の *from the water* は主語 *he* の居場所を表しているとも、目的語 *a big fish* の居場所を表しているとも解釈できる。彼が水の中にいる解釈の場合、魚の元の居場所は無指定で、岸の上にも良い。例えば、彼が水の中に隠れて、他人が釣って岸に置いた魚を盗むような場合である。ただし、この解釈は次の例のように、魚がどこへ行ったかを表しているほうが自然である (Nathaniel Preston 先生のご指摘)。

(12) *From the water, he pulled a big fish, and it slid into the lake.*

また、魚が元は水の中にいる解釈の場合、彼の居場所が無指定になる。例えば、次の (13) (Nathaniel Preston 先生による例) を見てみよう。


(13) *From the air, he pulled a floating feather. From the water, he pulled a big fish.*

この例では、二つの *from* 前置詞句で対比させることで、動詞目的語 (*a floating feather* と *a big fish*) の居場所だけが前置詞句によって対比されている解釈が可能である。

つまり、(11) には *from the water* が文末にある (4) と同様の二つの解釈があることになる。次の節は、日英語の文頭の PP の派生について考察する。


2.1.2 文頭の PP の派生

PP が文頭にある場合、それが主語の居場所あるいは目的語の居場所を表す解釈が可能である。PP は次の (15) のように最初から文頭にある場合と、(16) のように移動による場合が二つが考えられる。

- (14) 水の中から、彼は大きな魚を引っ張り上げた。 = (6)
 (15) [PP 水の中から] 彼は [VP 大きな魚を引っ張り上げた]
 (16) [PP_i 水の中から] 彼は [VP ______i 大きな魚を引っ張り上げた]
- 

PP が文頭に現れたとき、二つの解釈ができる。一つは、(15) のように「水の中から」が初めから文頭に位置し、「彼」が水の中にいる解釈になる場合である。もう一つは、(16) のように「水の中から」が VP の中から文頭まで移動し、「魚」の居場所を表す解釈である。

次は対応する英語の例である。

- (17) From the water, he pulled a big fish. = (11)
 (18) From the water, he [VP pulled a big fish]
 (19) From the water_i he [VP pulled a big fish ______i]
- 

文頭の **From the water** は主語 **he** が表す彼の居場所を表すほか、目的語 **a big fish** が表す魚の居場所を表すこともできる。後者の場合、(19) のように VP の中から文頭まで移動した派生が考えられる。前者の場合 **from the water** が (18) のように最初から文頭に位置することになるが、日本語 (15) の場合ほど自然ではない。つまり、英語では、PP の移動の解釈のほうが強いと考えられる。次の節では、対応する中国語の例を考察する。

2.2 中国語の起点を表す「从水里」

2.1 節で扱った「水の中から」と **from the water** に対応する中国語は前置詞句「从水里」である。この節では、「从水里」を構造的曖昧性と前置詞句移動から考察を行う。まずは構造的曖昧性の考察である。

2.2.1 構造的曖昧性からの考察

(5) / (9) と対応する中国語の構造は (20) である。(6) / (10) と対応する中国語の構造は (21) である。

- (20) 他 [PP 从 水里] [VP 把 一条 鱼 拉 了 上 来]
 彼 から 水 中 ACC 一匹 魚 引っ張る PFV 上がる 来る
 「彼は水の中から、一匹の魚を引っ張り上げてきた。」

- (21) 他 [VP [PP 从 水里] 把 一条 鱼 拉 了 上 来]
 彼 から 水 中 ACC 一匹 魚 引 っ 張 る PFV 上 がる 来 る
 「彼は一匹の魚を水の中から引っ張り上げてきた。」

(20) は水の中にいるのが主語「彼」である場合の構造である。(21) は水の中にいるのが目的語「魚」である場合の構造である。「从水里」を文頭に置いた例文は以下になる。

- (22) ?? 从水里, 他把一条大鱼拉了上来。

(22) は不自然な文である。(7) の日本語と違い、彼が水の中にいようが、水の外にいようが、いずれの解釈でも不自然である⁴⁾。「从水里」は、(23) のように目的語の後に現れることもできる。


- (23) 他 [VP 把一条鱼 [PP 从水里] 拉了上来]

(23) では「从水里」が VP の中にあって、魚の居場所しか表さない。この点で日本語の (8) と違う。具体的な違いは第3節で述べる。

まとめると、日本語も英語も中国語も構造的曖昧性を持ち、PP が VP の外にある解釈も、中にある解釈もできる。中国語では、(23) のような語順によって、(20) と (21) の曖昧性を解消することができる。

2.2.2 対比による PP の移動からの考察

中国語でも PP の移動の解釈ができるかを以下の例で考えてみよう。

- (24) ?[PP 从水里] 他 [VP 把一条大鱼拉了上来]
 (25) ?[PPi 从水里] 他 [VP 把一条大鱼 ______i 拉了上来]


- (26) 在水里, 他把一条大鱼拉了上来。

(24) のように、前置詞句「从水里」が最初から文頭、つまり、VP の外にある場合、不自然な文になる。主語「他」の居場所を表すのに、起点を表す「从水里」より、出来事が発生する場所を表す前置詞句「在水里 (水の中で)」のほうが (26) のように自然である。(25) では、魚の居場所を表す「从水里」が VP の中から外まで移動し、自然になるはずだが、やはり不自然である。それは、前置詞句「从水里」をトピックのように話題化し強調する理由がないからだと考えられる。強調する文脈では、自然になることは次に見る。

Klippel (1991) は中国語では、終点や体勢を表す前置詞句は文頭に置くことが不可能だが、前置詞「从」で始まる PP (以下「从 PP」と表記) を文頭に置くことは比較的的自然になると述べている。しかし、なぜなのかの説明はない。「从 PP」が文頭で (22) のようにそれよりは自然になる理由は存現文であるからと考えられる。存現文というのは、人、あるいは物事がある場所 (または時間) に存

在、出現、消失することを表す文である。存現文は既知のものは、未知のものより前という原則に基づき、「場所句⁵⁾/時間句+動詞+存在物/出現物/消失物」という語順になる(朱徳熙 1982: 114)。移動の特徴を考えると、起点が既知で、未知の経路を通して、未知の終点に到着する。よって、終点を表す前置詞句は未知のため、文頭に置くことが不可能である。一方、「从 PP」は起点として既知であるから、(22) のように、文頭にあっても、それほど不自然にならない。

では、どのような場合に文頭に「从 PP」が現れるか。2.1.1 節であげた (13) (= From the air, he pulled a floating feather. From the water, he pulled a big fish) のように対比の意味が含まれている中国語の例文を作ると、次のようになる。

- (27) 从 河 里, 他 把 一 条 鱼 拉 了 上 来 ;
 から 川 中 彼 ACC 一匹 魚 引っ張る PFV 上がる 来る
 从 海 里, 他 把 一 只 虾 拉 了 上 来。
 から 海 中 彼 ACC 一匹 エビ 引っ張る PFV 上がる 来る
 「川からは、彼は一匹の魚を引っ張り上げてきた。海からは、彼は一匹のエビを引っ張り上げてきた。」

「从河里(川から)」と「从海里(海から)」の対比で、川からは魚、海からはエビのように対比の意味を表す文にすると、起点を表す前置詞句が文頭に現れても、より自然になる。英語も中国語もこの点で同じである。

2.3 結果位置を表す「水の外に」と Out of the water

He pulled a big fish out of the water の out of the water と対応する日本語では、影山は (3) のように、「水の中から」を使ったが、移動の結果として、目的語である魚が水の外の空中になることから、out of the water に対応する日本語は「水の外に」だと考えられる。この節では、「水の外に」と out of the water の構造的曖昧性と PP の移動から考察を行う。まずは構造的曖昧性の考察である。

PP が結果的位置を表す英語と日本語の例は次のようになる。

- (28) He pulled a big fish out of the water. = (1)
 (29) 彼は水の外に大きな魚を引っ張り上げた。

(28) では、out of the water は pulled a big fish が作る動詞句の中にあると考えられる。(29) の日本語も、「水の外に」は動詞句の中にあつて、英語同様、魚の移動の終点、すなわち、結果的位置を表している解釈になる。

(28) と (29) の PP を文頭に置くとそれぞれ次のようになる。

- (30) ?Out of the water, he pulled a big fish.
 (31) ? [PP_i Out of the water] he [VP pulled a big fish_____]_i

(32) 水の外に、彼は大きな魚を引っ張り上げた。

(33) [_{PPi} 水の外に] 彼は [_{VP} _____] 大きな魚を引っ張り上げた]

(32) は (29) と同様、「水の外に」は目的語「大きな魚」の結果的位置しか表せないが、文としては自然である。一方、(30) は (28) と同様に、out of the water は魚の結果的位置しか表さないが、日本語と違い文として不自然である。しかし、次の (34) のように、対比的な文脈では、(13) と同様に、文頭の PP も自然になる。

(34) Out of the river, he pulled a carp; Out of the pond, he pulled a goldfish.

(35) (36) のように、文頭まで移動した PP を持つ文の派生は次のようになる。

(35) ?[_{PPi} out of the water, he [_{VP} pulled a big fish _____]]



(36) [_{PPi} 水の外に] 彼は [_{VP} _____] 大きな魚を引っ張り上げた]



(35) は、派生としては問題ないが、上で述べたように、対比の文脈が必要である。

まとめると、結果位置を表す PP は日本語も英語も構造的曖昧性がなく、「水の外に」と out of the water は VP の中に由来する、魚の居場所を表す解釈しかできない。

2.4 2節のまとめ

2節で考察したことをまとめると以下のようになる。日本語では、PP が最初から文頭にある場合、主語の居場所を表すことができる。PP が VP の中から文頭に移動した場合、目的語の居場所を表している。一方、英語では、PP が VP の中から文頭まで移動した解釈が強い。PP が最初から文頭に位置する場合、主語の位置を表す解釈は日本語ほど自然ではない ((11) 参照)。ただし、対比の文脈で、PP が VP の中から文頭に移動すると、目的語の表すものの移動の出発点を表し、文は自然になる ((13) 参照)。中国語では、英語と同様、PP が最初から文頭に位置する場合、文が不自然だが、対比の文脈で、VP の中から文頭に移動すると、目的語の表すものの移動の出発点を表すことになり、文が自然になる ((27) 参照)。しかし、英語と違い、中国語では、対比でない限り、VP の中から文頭への移動は英語よりも不自然になる。

三つの言語の共通点としては、日本語も英語も中国語も、PP が元々 VP の外にある場合、主語の居場所を表し、元々 VP の中にある場合、目的語の居場所を表している。英語では、初めから文頭にある from the water は主語の行為の起点も表せる ((11) 参照)。一方、初めから文頭にある out of the water は主語の行為の終点を表すことはできない。


3. 目的語の移動

この節では日本語の (8) 中国語の (24) について分析する。


(8) (下の (37) として再掲) は、「水の中から」が目的語「魚」の直後にある場合、「魚」が水の中にいる解釈が強いが、主語の彼が水の中にいて、魚は地面にいる解釈も不可能ではないと 2.1.1 節で述べた。この解釈は目的語の移動から出てくると考えられる。

(37) 彼は大きな魚を [PP 水の中から] 引っ張り上げた。= (8)

(38) 彼は [NP_i 大きな魚] を [VP [PP 水の中から] ______i] 引っ張り上げた]



(39) 彼は [NP_i 大きな魚] を [PP 水の中から] [VP ______i] 引っ張り上げた]




(38) で示しているように、VP 中にある目的語である「大きな魚」が VP の外、つまり、主語の直後に移動したことが考えられ、PP「水の中から」も VP 中にあることから、「水の中から」は魚の居場所を表している。しかし、(39) のように、PP「水の中から」が元々 VP の外にあっても、VP 中にある「大きな魚」が VP の外の PP の前に移動した可能性もある。その場合、PP「水の中から」は「彼」の居場所を表している。従って、(37) は (38) と (39) の二つ通りの可能性があるため、二つの解釈ができる。次は中国語 (24) についての考察である。

今までの例文では日本語の語順と一致させるために、「把」を用い、目的語を動詞の前に移動した。SVO の語順にすると、以下のようなになる。

(40) 他 从 水 里 拉 上 来 了 一 条 大 鱼。
 彼 从 水 中 引 っ 張 る あ げ る く る PFV 一 匹 大 き な 魚
 「彼は水の中から大きな魚を引っ張り上げてきた。」


「把」を用いた文は話し手の感情、視点、認識という沈家煊 (2002) による主観性の意味とは別のほか、目的語の移動も伴う。

(41) 他 [VP [NP_i 把一条大鱼] [PP 从水里] [VP 拉上来了 ______i]]



(把 +)

(42) 他 [VP [PP 从水里] [NP_i 把一条大鱼] [VP 拉上来了 ______i]]



(把 +)

(41) のように、目的語である「一条大鱼」に「把」が付くことで文末から主語の直後まで移動する。

あるいは、(42) のように PP である「从水里」の直後まで移動する。(41) も (42) も、「把」の付いた目的語は VP の中に留まっており、VP 内の目的語の焦点化と考えられる。

まとめると、目的語の移動について、中国語では、PP は元々 VP 中に位置し、目的語の移動は、VP 内の移動で、PP が目的語の居場所しか表せない。一方、日本語では、中国語と違い、目的語が VP の中から外まで移動したとしても、PP は元々 VP の外にある場合、主語の居場所を表し、PP は元々 VP の中にある場合、目的語の居場所を表すことになる。

次の節では、以上で考察した構造的曖昧性と移動の観点から、「病室から」と対応する英語、中国語の前置詞句で説明できるかどうかを検証してみる。

4. 「病室から」とそれに対応する中国語の検証

この節では、2 節と 3 節での考察が、起点を表す後置詞句「病室から」とそれに対応する中国語の前置詞句を持つ文の構造や解釈にも当てはまるかどうかを検証する。

4.1 「病室から」

影山 (2002: 62) は「水の中から」を含む文と似たような例を挙げた。

(43) He pushed the wheelchair out of the sickroom.

(44) 彼は病室から車椅子を押した。

影山 (2002: 62) によると、(43) の英語は「[彼が] 車椅子を押して、部屋の外に出ていく」という解釈で、(44) の日本語は「押した人は病室の中にいて、そこから手を伸ばして、廊下にある車椅子を押した」としている。英語と同じ解釈にするには次の (45) のように、「押して行った」を用いないといけない。

(45) 彼は病室から車椅子を押して行った。

	主語の位置	目的語の位置
(a)	病室から	無指定
(b)	無指定	病室から

(43) の英語は (44) の日本語と違って、主語の彼と目的語の車椅子と一緒に移動しているのである。日本語の (45) では、二つの解釈がある。一つ目は、「病室から」が彼の行為の起点を表し、車椅子の位置が無指定である解釈である。二つ目は、「病室から」が車椅子の移動の起点を表し、彼の位置は無指定である。この (a) (b) 二つの解釈の構造はそれぞれ (46) (47) のようになる。

(46) 彼は [_{PP} 病室から] [_{VP} 車椅子を押して行った]

(47) 彼は [_{VP} [_{PP} 病室から] 車椅子を押して行った]

(46) は PP が VP の外にあるため、押した人は病室の中において、車椅子を押して行ったような (a) の解釈ができる。ただし、(a) の「無指定」が示すように、車椅子は初めから病室の中にある必要がなく、出入口にあっても良い。(47) は PP が VP の中にあるため、車椅子が病室の中から押されて行った解釈になる。ただし、主語の彼の居場所については、(b) の「無指定」が示すように、この構造からは分からない。今度は次を見てみよう。

(48) [_{PPi} 病室から] 彼は [_{VP} 車椅子を押して行った]

(49) [_{PPi} 病室から] 彼は [_{VP} _____ 車椅子を押して行った]



(48) のように、「病室から」が最初から文頭にある場合、彼の居場所を表すことができる。一方、(49) のように、「病室から」は最初水の中にあつて、車椅子の移動の起点を表し、VP の中から、文頭まで移動した派生も可能である。つまり、解釈としては (48) は (46) と同様で、(49) は (47) と同様である。

「病室から」が目的語である「車椅子」の直後にある場合、次の (50) になる。

(50) 彼は [_{VP} 車椅子を [_{PP} 病室から] 押して行った]

(50) のように、「病室から」は VP の中であつて、目的語である車椅子の居場所を表すことしかできないはずである。しかし、次のような二つの派生が考えられる。

(51) 彼は [_{NPi} 車椅子] を [_{VP} [_{PP} 病室から] _____] 押して行った]



(52) 彼は [_{NPi} 車椅子] を [_{PP} 病室から] [_{VP} _____] 押して行った]



(51) (52) は共に、目的語の移動による派生である。(51) では、「病室から」は VP の中にある。目的語である車椅子が VP の中から外まで移動し、VP 中の「病室から」は車椅子の移動の起点を表している。(52) では、「病室から」は元々 VP の外にあることで、彼の行為の起点を表している。

以上の点は、2 節での考察と一致している。

4.2 中国語の「从病房」

この節では、「病室から」と対応する中国語を考察する。(46) (47) と対応する中国語の例は次になる。

(53) 他 [_{PP} 从病房] [_{VP} 把轮椅推了出去]

(54) 他 [_{VP} [_{PP} 从病房] 把轮椅推了出去]

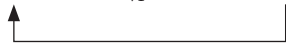
(53) と (54) の構造のように、PP「从病房」はそれぞれ主語の「他」の位置を表す解釈と、目的語の「轮椅」の移動の起点を表す解釈の二つがある。PP「从病房」が文頭にある場合は次のようになる。

(55) ?从病房, 他把轮椅推了出去。

(55) はしかし、不自然な文になる。(55) は、次の (56) (57) の構造が考えられる。

(56) ?_[PP]从病房] 他 _[VP]把轮椅推了出去]

(57) ?_[PPi]从病房] 他 _[VP]把轮椅 ______i 推了出去]



(56) では、PP「从病房」が最初から文頭に位置し、主語の「他」の居場所を表すが、その解釈では文が不自然である。(57) のように、VP の中から文頭まで移動した場合も不自然になる。2 節の考察を踏まえると、対比の文脈にすれば、文が自然になるはずである。次がその例である。

(58) _[PPi]从 病房] 他 _[VP]把 轮椅 ______i 推 了 出 去]

から 病室 彼 ACC 車椅子 押す PFV 出る 行く

_[PPi]从 教室] 他 _[VP]把 椅子 ______i 推 了 出 去]

から 病室 彼 ACC 椅子 押す PFV 出る 行く

「病室からは、彼は車椅子を押して行った。教室からは、彼は椅子を押して行った。」

実際、(58) が自然である。VP の中から外へ移動した PP は「轮椅」/「椅子」の移動の起点を表している。2 節での考察と一致している。

4.3 目的語の移動の検証

この節では、3 節で見たような目的語の移動を 4.2 節の例文に基づいて、検証する。まず、次を見てみよう。

(59) 他 _[VP]_[NPi]把轮椅] _[PP]从病房] 推了 ______i 出去]



(把 +)

(60) 他 _[VP]_[PP]从病房] _[VP]_[NPi]把轮椅] 推了 ______i 出去]



(把 +)

(59) (60) では、いずれも VP の中での目的語の移動である。PP も VP の中に位置するため、PP は目的語の居場所しか表せない。

次は (44) の日本語と対応する中国語である。

(61) 他 从 病房 推 了 轮椅。
 彼 から 病室 押す PFV 車椅子
 「彼は病室から車椅子を押した。」

(61) は (44) と同様、主語が病室の中において、車椅子の位置が無指定である。押された車椅子の結果的な位置は分からない。「病房 (病室)」をさらに文末にもつけた表現は次の (62) である。

(62) 他 从 病房 把 轮椅 推 出 了 病房。
 彼 から 病室 ACC 車椅子 押す 出る PFV 病室
 「彼は病室から車椅子を病室の外に押し出した。」

(62) は目的語「轮椅」に「把」をつけて動詞「推 (押す)」の前に置いた文である。(62) の PP「从病房」は出来事が発生する場所と移動の出発点とどちらの意味にも取ることができる。従って、(62) には文として二つの意味がある。一つ目は、病室が出来事が発生する場所として、彼が病室から病室にある車椅子を押して、車椅子と一緒に病室の外へ出たという意味である。二つ目は、病室は車椅子の移動の出発点として、主語の彼が病室にある車椅子を押して、車椅子だけが病室の外へ出たという意味である。この時、彼は病室にいる主語の必要はないが、現実的には病室にある車椅子を押すためには、彼も病室にいることが推測される。一方、(61) では、この二つの意味の違いは区別できない。

5. 「拉出 (引っ張り出す)」「拉上 (引っ張り上げる)」と対応する日本語の比較

今まで見てきた中国語の例から分かるように、中国語では終点を表すのに「出」か「上」を使う。「水面」という境界線を表す表現と一緒に「出」を使って、以下のような例ができる。

(63) 他 把 一条 大鱼 拉 出 了 水面。
 彼 ACC 一匹 大きな魚 引っ張る 出す PFV 水 表面
 「彼は一匹大きな魚を水面の外に引っ張り出した。」

(63) では、彼が魚を水面の下から水面の上へ、つまり、水面という境界線を突破し、空中まで引っ張り出したという解釈になる。中国語「出了水面」が持つ境界線を突破するという意味と対応する日本語は次のようなものが考えられる。

(64) 彼は一匹大きな魚を水面の中から外に引っ張り出した。

(64) のように、日本語では相対位置を表す名詞「中」「外」を含む「水面の中から外に」を使うことで、水面という境界線を突破する意味を出すことができる。

次は (63) の「出」の代わりに「上」を使った例である。

- (65) 他 把 一条 大鱼 拉 上 了 水面。
 彼 ACC 一匹 大きな魚 引っ張る 上げる PFV 水 表面
 「彼は一匹大きな魚を水面まで引っ張り上げた。」

(65) のように「上」を使うと、魚が最初水の中にいて、水面まで達しているという解釈と、水面の上まで到達するという解釈の二つの解釈ができる。二つとも、水の中から距離のある終点まで上がってくる点で共通している。(63) と (65) の解釈を図にすると、次のようになる。「上」にある二つの解釈を「上₁」と「上₂」として表記する。

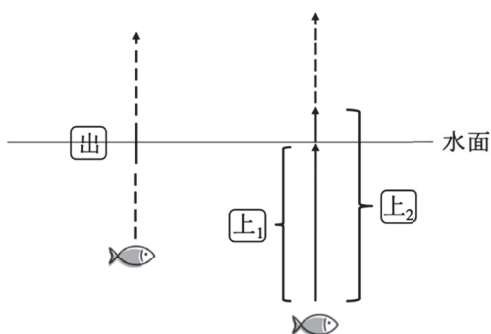


図 1

図 1 で示している「上₁」と「上₂」の二つの意味にそれぞれ対応する日本語は次のようなものが考えられる。

- (66) 彼は一匹大きな魚を水面まで引っ張り上げた。
 (67) 彼は一匹大きな魚を水面の上に引っ張り上げた。

(66) と (67) のように、日本語では「水面まで」と「水面の上に」の使い分けによって、中国語「上了水面」の二つの意味を表すことができる。図 1 の「上₁」で示しているように、深さのある水の中から、水面という終点まで魚が移動したことを表すには、(66) のように「まで」が適切である。「上₂」の意味を表す場合、相対位置を表す「の上」が必要であり、(67) のように「水面の上に」という表現になる。Talmy (1985) の空間移動の類型論によると、中国語は英語と同様、衛星枠付け言語に属し、日本語は動詞枠付け言語に属する。しかし、(63) (65) では、移動の経路を表している「拉出了水面」と移動の経路及び終点を表している「拉上了水面」における二番目の要素「出」「上」は動詞であるので、中国語は動詞枠付け言語の性質を持っていることになる。さらに、(66) (67) の日本語では下線部のような後置詞句を使うことで、中国語の動詞句の意味と対応することがあるので、日本語は衛星枠付け言語の性質も持っていることになる。

6. 結論

本稿では、移動を表す文に対して、PP (前置詞句 / 後置詞句) の文中での構造的曖昧性及び統語的

な移動を考察した。さらに、目的語の移動の考察も加えた。文中に位置する PP は VP の中にあるか、VP の外にあるかがしばしば曖昧である。PP の移動において、中国語も英語も VP の中から文頭に移動すると、対比的に解釈される限り、文は自然になる。中国語の「把」を伴う目的語の移動において、PP が元々 VP 中に位置し、目的語の移動は、VP 内に止まり、PP は目的語の居場所しか表せない。さらに、「出」と「上」の使い分けで、「出」は突破する面を、「上」は到達する面を表現することができる。一方、日本語では、同じ意味を表すのに相対位置を表す名詞が必要である。

最後に先行研究との違いを述べる。杜 (2020) では、完了アスペクト「了」の分布、否定のスコープ、疑問文に対する応答をもとに中国語の移動表現の分析を行ったことで、Talmy によって衛星枠付け言語に分類された中国語には動詞枠付け的な性質が見られることを主張した。本論文では、PP の構造的曖昧性、PP の統語的な移動、さらに目的語の移動の考察からも、動詞枠付け的な性質が見られることが分かった。最後に、Talmy によって動詞枠付け言語に分類された日本語にも衛星枠付け的な性質を持っていることをさらに検証することが今後の課題である。

注

- 1) 以下前置詞句と後置詞句は共に PP と表すことがある。
- 2) 以下日本語の例についての判断は佐野まさき先生によるものである。
- 3) 二つの解釈があることを次の節で移動の観点から説明する。
- 4) 不自然になる理由は具体的に 2.2.2 節で考察する。
- 5) ここでの「場所句」は出来事が発生する場所を示す。場所を表す前置詞「在」を用いた「在水里 (水の中で)」を (22) の「从水里」と入れ替えると文は完全に許容される。

参考文献：

- 影山太郎 (2002) 『ケジメのない日本語』岩波書店。
- 杜天邑 (2020) 「現代中国語移動表現の動詞枠付け的性質：統語的証拠からの考察と日本語との対照分析」『立命館文學』立命館大学人文学会 (668), 1-16.
- 沈家煊 (2002) 「如何处置“处置式”——论把字句的主观性」『中国语文』(05), 387-399.
- 朱德熙 (1982) 『语法讲义』商务印书馆。
- Inagaki, Shunji (2001). Motion verbs with goal PPs in the L2 acquisition of English and Japanese. *Studies in second language acquisition*, 23 (2), 153-170.
- Klippel, Elizabeth Mary (1991). The aspectual nature of thematic relations: Locative and temporal phrases in English and Chinese, doctoral dissertation, Massachusetts Institute of Technology.
- Koopman, Hilda (2010). Prepositions, postpositions, circumpositions, and particles. In Guglielmo Cinque & Luigi Rizzi (eds.), *Mapping of spatial PPs: The cartography of syntactic structures: Vol. 6*, 26-73. Oxford: Oxford University Press.
- Suzuki, Takeru (2012) Strong Resultatives as a Bounded PathPP Construction: PathPP Structure and Parametrized Path Head Movement. *Coyote Working Papers*, 20, 109-117.
- Talmy, Leonard (1985) “Lexicalization patterns: Semantic structure in lexical forms.” In T. Shopen (ed.), *Language Typology and Syntactic Description, Volume III: Grammatical Categories and the Lexicon*, 57-149. Cambridge: Cambridge University Press.
- Yotsuya Atsuko, Asano Masanao, Koyama Sayaka, Suzuki Kazunori, Shibuya Mayumi, Endo Kazuki, Iwagami Eri, Ono Minami, Takeda Kazue and Hirakawa Makiko (2014). Crosslinguistic Effects in L2 Acquisition: Strong/Weak Resultatives and the Directional/Locational Interpretation of PPs in L2 English by Japanese Speakers. In *Selected Proceedings of the 2012 Second Language Research Forum*, 89-100. Somerville, MA: Cascadilla Press.